

令和8年度 瑞浪市社会教育委員会研究テーマ

## 「学校・家庭・地域でつなげる家庭教育支援の在り方」

～ふるさと瑞浪の未来を託す人づくり～

### 1 テーマについて

- 家庭教育はすべての教育の出発点である。
- ふるさと瑞浪の未来を託すべき人づくりは、家庭教育が出発点となる。
- 人口減少・少子高齢化が進み、家庭教育を支える地域の社会基盤が揺らいている。
- 共働き世代やひとり親家庭の増加などが要因となり、子育て世代の親と地域とのつながりの希薄化も懸念されている。
- 不登校、引きこもり、ゲーム依存、ヤングケアラー、児童虐待相談件数の増加など、家庭における子どもの育ちに関する課題は複雑化している。
- 地域の実情に応じた相談体制や学習機会の提供、情報共有が必要である。
- 保護者自身が家庭教育について学び合えるような環境を整備することが必要である。
- 家庭教育の現状から家庭教育支援について見直していかなければならない。
- ◎社会教育として家庭教育をどのように支援することが可能かを調査研究する。

### 2 調査研究内容（例）

#### （1）家庭教育支援の現状と課題

- ① 家庭教育の多様化
- ② 子育て世帯と地域のつながりの希薄化
- ③ 社会課題である「いじめ」「不登校」「ヤングケアラー」等
- ④ 家庭教育に関する情報収集の方法
  - ・基本的な調査の結果の情報収集（教育委員会等資料）
  - ・子どもを通じた保護者の意識・現状について（学校評価より）
  - ・保護者の意識と現状について（市P連、単P役員との懇談による）
  - ・保護者アンケートの実施

#### （2）家庭教育支援に対する提言

##### ①学習機会の提供

- ・PTA 家庭教育学級の支援
- ・保護者情報リテラシーの向上
- ・地域と連携した家庭教育学級の学習機会の提供

## ②学校、家庭、地域が連携して取り組む家庭教育支援

- ・学校、家庭、地域が連携した家庭教育支援
- ・地域の特色を生かした子どもを育てる取り組みの充実
- ・子ども自身の社会貢献活動への参加推進（子どもに直接働きかけられる）

・・・等々



【アンケートの分析をする社会教育委員 R7.7.20】

### 家庭教育推進協議会・生指連強研修会・タウンミーティングに参加して

R8.1.22 東濃地区社会教育振興協議会 会長 加納 素介

「これからの家庭教育支援」については、生徒指導上の様々な課題解決を目指して、学校等を通して家庭に啓発していくことが求められていることを学ばせて頂いた。

「東濃管内のいじめの現状」については、いじめの認知件数は減少傾向だが、不登校児童生徒数は増えているという現状を確認することができた。この数値に関連して、江畑准教授の示した「児童生徒における自殺の原因・動機の計上率」にも関連していると感じた。

家庭教育の課題として、その原因の多くが愛着形成の不足にあると感じる。こうした問題は学校現場では以前から感じていることであり、児童生徒への指導のために、教師による保護者への支援は不可欠であった。現在も家庭（保護者）への支援は、学校無くしては成り立たない現状があることを研修内容からも感じた。それと同時に求められている地域からの家庭に対する様々な支援は、年々難しくなっている現状がある（自治会加入率の低下や民生委員のなり手不足など）。

これからの家庭教育支援については、学校頼みではなく（それでも学校を頼りにしないと難しい面もあるし、教育委員会の働きかけは学校を通してとなりがち）、コミュニティ・スクール、地域学校協働活動、家庭教育支援チーム、企業による家庭教育の充実や連携が大いに必要になってくる。

今後の研修などでは、家庭に働きかけられる組織の在り方（動き方）など、実際に家庭教育に関わり、効果をあげられるような取り組み方のモデルケースやノウハウを学べる機会があるとよい。

タウンミーティングについては、学校関係者からの意見を多かったが、家庭教育への重要性（現場の困り感）とそれぞれの立場で熱心に取り組んでみえることを伺うことができた。個々の立場や行政等の各組織間の繋がりを見直して、実効性のある家庭教育が必要になってくると改めて感じた。